

2021 年度（令和 3 年） 事業報告
及び

2022 年度（令和 4 年） 事業計画（案）

認定 NPO 法人プール・ボランティア

2021 年度（令和 3 年） 事業報告 及び 2022 年度(令和 4 年) 事業計画（案）

認定 NPO 法人プール・ボランティア
(以下「PV」と省略する。)

1. 事業報告期間	2021 年1月1日 ～ 2021 年 12 月 31 日
事業計画期間	2022 年1月1日 ～ 2022 年 12 月 31 日

2. 2021年度活動実績(2021年12月末現在)

■ボランティア会員

のべボランティア会員入水数	1,793名
ボランティア活動実人数	76名 (1回以上入水した実人数)
入会ボランティア会員数	28名
現ボランティア会員数	153名 (2021年度の最終会員番号 PV-1337)

■利用会員

のべ利用会員入水者数	1,411名
入会利用会員数	7名
現利用会員数	54名 (法人会員を含む。)

■PV応援団(寄附会員) 85名

■寄付者 258名 (法人及び大阪マラソンの寄付者も含む。)

■会計実績

経常収益	17,818,184 円
経常費用	25,887,503 円
累積負債総額	44,041,814円
消費税納税額	0円 (消費税免税事業者のため)

3. 2021年度の活動総括

2020年度も同じことを書きましたが、2021年度も！「コロナに始まり、コロナで終わりました。」

2020年に引き続き、ほんまに新型コロナ君に振り回された大変な一年でした。

2020年度が「ピンチの一年」だったとすると、2021年度は、「超ピンチの一年」でした。

どないしてくれんねん。ほんまに……。泣けるぜ。なんとかせえ！コロナめ！

しか～し！それらをすべて帳消しにする素晴らしく嬉しいことがありました。

堀川戎の神様、愛宕山の河童の神様、伏見稻荷の神様、野江の水神社の神様、奈良県外山不動院の不動明王様に毎朝、手を合わせていたのが良かったんかなあ。

神様、不動明王様、ありがとうございます。

生きててよかったああああ。

それは……………。

【PVの嬉しい11大ニュース】

- ① 何と言っても、一番の嬉しいニュースは、皇居で天皇陛下・皇后陛下から拝謁を賜ったことです。重厚で見事としか言いようのない宮殿の中、咳もできない極度の緊張感、直立不動の15分間。両陛下の優しいお言葉をいただき、素晴らしい体験をさせていただきました。この感動は、とてもひと言では言い表せません。23年間、地道に、真面目に、誠実に、ひたむきに、歯をくいしばって活動を継続していたことが認められたのです。もう号泣ですやん。いただいた賞の名前は、「第73回保健文化賞」。賞金も200万円、いただきました。その他にも、厚生労働大臣賞、第一生命賞、朝日新聞厚生文化事業団賞、NHK厚生文化事業団賞も同時受賞しました。最高！
- ② 二番目も、同じく大きな賞を受賞したことです。賞の名前は、「第56回社会貢献者表彰」（東京帝国ホテル）。賞金は、50万円、いただきました。こちらも、大きな賞で、とても華やかな演出が印象的でした。今まで、プール・ボランティアを支援していただいたボランティア会員、利用会員、PV応援団、その他の支援者のみなさまを代表する気持ちで授賞式に臨みました。この財団の会長である元内閣総理大臣の奥様の安倍昭恵さんは、とてもお優しい方でした。
- ③ 長年の悲願だった「グッドガバナンス認証」を獲得したことです。条例指定、認定に続く第三者機関からの高い評価を得たことは、とても誇らしいことです。大阪府内では、初の認証でした。これからも、NPOの魁として頑張っていく気持ちを新たにしました。これで、やっと一流のNPOの仲間入りができる感があります。いやいや、まだまだかな。
- ④ 大阪府の「新型コロナ助け合い基金」に10万円を寄附したことです。これは、「走って、泳いで、チャリティだポン！」というチャリティ企画で、スポーツNPOらしい寄附金の集め方でした。仲の良い九州のNPOの改革プロジェクトさんと一緒に寄付金集めをしました。とても楽しかったし、新型コロナの野郎に一矢報いることができたと思います。
- ⑤ 日本で初めての「プール専用車いす/サンダーバード1号」が豊中市のニノ切り温水プール、豊島温水プールに各1台売れたことです。この車いすは、素晴らしい代物で乗られた障害者の方は、みなさんあまりの素晴らしさに驚かれます。PVの自信作です。これをパラリンピックやワールドマスターズ大会に今後売りさばいていこうと考えています。爆発的に売れたら、もっとPVの財政が潤うんやけどなあ。今後のサンダーバードの製作は、「San Lab（サンラボ）」という会社にお願ひしました。

- ⑥ PVのボランティアさんで、元オリンピックの島津さんが東京オリンピックの聖火ランナーに選ばれたことです。取材や万博公園での聖火リレーの応援などでプール・ボランティアの知名度が大きくアップしました。そして、こういう大きな国家事業に関われたことは、プール・ボランティアの誇りでもあります。
- ⑦ 新型コロナ禍の中、今年も、小学校で水の事故防止の出前授業をしてきたことです。川辺小学校のみなさん、ありがとうございました。130名の子どもたちにとって、貴重な実体験だったと思います。引き受けるPVとしては、大きな負担なのですが、こういう出前授業の要請がもっともって増えていくことが水難事故の防止につながると思っています。
- ⑧ 東京パラリンピックに関連して、阪急百貨店で「キッズスポーツスタジアム」に出展したことです。2週間の出展は、とても厳しいものがありましたが、スポーツNPOとして少しでも社会に貢献できたことは嬉しいことでした。
- ⑨ 新型コロナ禍の中、今年も、ラクタブドームプールを貸切り、他のNPOを招待して、盛大に「PV in ラクタブドーム」を開催できたことです。100名を超える子どもたちが参加し、とても楽しい水遊びができました。来年は、もっと招待するNPOや子どもを増やしたいと思っています。
- ⑩ 長居競技場で、ボランティアさんたちと一緒に「リレーマラソン」に出場したことです。これはきつかったあ。水の中は得意でも、陸上になると全然、あきまへん。ダントツのビリで、みんなの注目を集めました。でも、とても楽しかった。
- ⑪ 最後は、障害者対応研修を四国の香川県で開催できたことを挙げておきます。このコロナ禍の中、そして、他の障害者対応研修がほとんどキャンセルされる中、よく開催してくれたものです。この開催を足掛かりにして、さらに日本全国でこういう研修が開催できることを心から願っています。

【PVの悲しい8大ニュース】

- ① 2021年度も、4月25日から6月20日まで、約2か月間は、コロナの感染拡大防止を理由に、すべての市民プールが閉鎖になりプール事業は開店休業。「陸に上がった河童」になってしまった。今年も、2020年度と同じことが繰り返された。ええ加減にせえよ。
- ② 全国から依頼が来るはずの障がい者対応研修は、ほとんど依頼そのものが来なかった。ええ加減にせえよ。
- ③ 2020年度も同じことを書いたけど、2021年度も、なんやかんやと出費が多く、おまけに収益は激減。昨年を上回る過去最大の赤字経営になってしまった。どないすんねん、これから。ええ加減にせえよ。
- ④ これも昨年と同じ。ボランティア会員の入会は28名だけ。昨年より12名よりは倍増したと喜ぶべきなんかなあ。でも、もっと増やさないと運営そのものができまへんわ。そして、利用会員の1割が退会。「家計が苦しくて水泳どころやありまへんわ。」ほんまやなあ！わかるわあ。しゃあない。
- ⑤ 水泳マスターズ大会も昨年同様、すべて中止。どこで活躍すんねん。どこでPRすんねん。どこでボランティアを獲得すんねん。ほんまにええ加減にせえよ。
- ⑥ 第10回大阪マラソンも、エリートだけでの開催で、チャリティランナーの部は中止。5年連続寄付先団体に採択されてんねんぞ。当てにしていた寄付金の穴を誰が埋めんねん。なんとかせえ。でも、沿道整理ボランティアに35名のボランティアを提供して、開催に大きく協力できた。チャリティランナーは中止になったけど、プール・ボランティアの「大阪マラソン愛」は、不滅です。
- ⑦ これも、昨年と同じ。20年間、毎年開催していた年末の中ノ島中央公会堂「PV設立記念パーティー」も

中止の決断をした。悲しすぎるわ。泣けるぜ。

- ⑧ システム開発を依頼していた会社と、もめにもめておそらく裁判沙汰になる予定。ここには、詳しく書けないけれど、ほんまに腹立つ！そもそもNPOは、現場の活動が忙しく、システムやホームページに関して、無知で、無防備である。どの会社がどの程度の能力があるのかさえ、見極める能力に乏しい。このような被害が広がらないように、プール・ボランティア独自で「IT問題の相談窓口」を開設した。今後は、いろいろなNPOの相談に乗っていきたい。

4. 2022年度へ向けての活動計画

【2022年度の五大目標】

- ① 新ボランティア会員の入会 36名
- ② 新利用会員の入会 10名
- ③ 第11回大阪マラソンの成功
- ④ 次世代新管理システムと新ホームページの完成
- ⑤ 東京と京都に進出する。

5. 7つの事業ごとの報告とそれぞれの来年度の目標

(1)障がい者・児の支援事業

今年度も、質的に素晴らしいサポートができて、とても満足している。指導能力の高いボランティア会員の増加が活動内容の充実につながっている。

来年度も、質の高いボランティアを一人でも多く獲得したい。

また、コロナの影響で利用会員が減少したので、利用会員も増やさなければならない。

この障がい者支援事業がPVの事業収入の本丸なのだから、安定した事業運営のためには、さらに充実していく必要がある。

(2)プール・リハビリ事業

来年度も、高齢者に限らず、肢体不自由者のためのいいリハビリに取り組んでいきたい。この事業は、手間と時間と費用がかかるが頑張りたい。平日の昼間のボランティアを、もっと確保する必要がある。この事業にPVの生き残る活路を見出したいのだけど、何をどうしていいものかわからないでいる。誰かいい知恵を貸してくれへんかなあ。

「リハビリの効果は、水泳練習の延長線上にある。」

(3)プール・オンブズマン事業

今年度も、いろいろな提言活動をした。指定管理者や行政の反応はとても鈍いものがあるが、地道に提言活動を継続することが大事なことだと考えている。

来年度も、各自治体やプールに対して積極的に働きかけ、障がい者を取り巻くプール環境の改善に少しでも努めたい。

この 20 年間の活動で、近畿圏のプールは、すごく良くなってきていると感じる。指定管理者や行政にも、少しずつ理解をしていただけるようになってきた。ただし、ほんまに少しずつ……。 「目洗いシャワーの撤廃運動」は、大阪維新の会の協力を得て、2022 年の3月の府議会で審議されることになった。結果がどうなるか楽しみ。(この報告書を書いている3月に否決された。行政の壁は厚いなあ。)

(4) 障がい者用水着等企画開発事業

身体障がい者の場合、変形した身体にフィットする水着が市販の水着では手に入らない。そこで、水着メーカーのミズノさんをお願いして個別に作ってもらう橋渡しの活動をしている。

この事業も収益性がなく、派手な宣伝効果もないけれど、活動を継続することが大事なことである。

「プール専用車イス～サンダーバード 1 号」と重度身体障がい者用浮き具「うきうきくん」は、素晴らしい製品だと自慢したい。

これらを全国に売って、売って、売りまくろうと考えている。少しずつではあるけれど、売れてきている。

東京のツカサドルフィン(株)のカタログに大きく掲載されている。収益アップに貢献できるかなあ。

(5) 障がい者対応研修普及事業

今は、コロナで、ひと休み状態だけど、これからも大きく発展していく事業であるし、今後もチカラを注ぎたい事業である。2021 年の終わりごろから、少しずつ研修の依頼も増えてきている。

指定管理者制度は良い面も多いが、どの指定管理者も障がい者対応については、経験と知識がなさすぎると感じる。市民プールの「市民」の中には、障がい者も性的少数者も含まれているはず。もっともっと勉強してもらいたい。でないと、公営プールの運営など、できまへんで！

今年度は、ほぼすべての研修予約がキャンセルになってしまったけれど、来年度からは頑張りたい。

(6) PV マスターズチーム運営事業

2021 年度は、すべての大会が中止になったので、さっぱりワヤになってしまった。

会員間の親睦の意味もあるが、試合会場に掲示するPVの大段幕や参加人数の多さで、PVの知名度をさらにアップさせたい。そして、ボランティアの募集や啓発活動につないでいきたい。

リレーチームが増えてきたし、障がい児だけのリレーチームも組みたいので、来年度には、今までの「NPO-PV」チームに加えて「NPO-PV+(プラス)」を作ろうと予定している。一般のマスターズ大会に障がい児だけでリレーチームを作って出場するなんて素晴らしいことじゃないか！プール・ボランティアでは、10 年ほど前に日本で初めて障がい児だけでリレーチームを作って完泳できた実績がある。来年度これができれば二回目の快挙である。

6. 各会員についての報告と来年度への課題

(利用会員)

この一年は、利用会員の入会希望者は、少ししか増えていない。ボランティアが不足しているので、積極的な受け入れもできない。けれども、業者と間違えているような利用会員は入会させるべきではない。PVの基本理念に賛同していることは、入会の絶対条件である。

これからも、年齢、障害の内容、程度を問わず、どんどん受け入れていきたい。ボランティアさえ豊富にいればなあ……。

(ボランティア会員)

ボランティア会員は、まだまだ不足である。質の良いボランティアの確保こそがPVの生命線であるという認

識は設立以来 22 年間ずっと不変である。

年々応募してくるボランティア希望者の質的レベルが高くなってきていると同時に、事務局からボランティアに求めるレベルも高くなってきている。

入会したボランティア会員で1年後も継続して活動しているボランティアは、それほど多くない。指導能力のないボランティアはPVでは生き残れない。

ボランティア会員の獲得については自然の増加に任せてはいけない。高校水泳部、大学、専門学校、マスコミ、そして企業などに積極的にアタックして、一人でも多くの「泳げるボランティア」を獲得すべきである。

大阪の地下鉄の車内広告を検討しているが、お金がないので夢だけで終わってるなあ。

また、今年度、新しく広報担当を採用し、利用会員、ボランティア会員の獲得にチカラを入れている。

ところで、毎月のように、ボランティア同志の親睦会が開催されている。PVの財産は、こういう仲のいい素晴らしいボランティアさんたちであり、PVの事業は彼らによって支えられているのである。

ボランティア同志の結婚も、12 組になった。素晴らしいことである。

ボランティア会員を動かしているものは、何だろうか？

彼らには、1 回 500 円の交通費しか支給していないのであるから「お金」が目当てでないことは、明白である。

では、何か！

PVの職員は、常にそのことを考える必要がある。

ボランティアに支払う謝礼や交通費を二倍にしても三倍にしても、質のいいボランティアが集まるわけではけっしてない。

(PV 応援団と寄附金)

気軽に寄付行為ができる「PV応援団」が確実に成果をあげている。たくさんの金銭的支援者を集めることも大事であるが、PVの活動趣旨を理解し、真に協力者となっただけの方だけを対象とすべきだという方針に変わりはない。お金だけもらってもありがたくはないし、支援される側のチカラにはならないからである。

応援団以外の寄付金も、少しずつではあるけれど、着実に増えてきている。

7. 事故報告

PV事業において「安全」が最優先されることは当然のことである。事業収益やボランティア会員の安易な穴埋めの配置を「安全」に優先させてはならない。

常に、職員が肝に銘じておくべき大切なことである。

今年度も小さなケガや事故は日常的に発生したものの、この事業報告に記載しなければならない救急車を要請するような大きな事故は一つもなかったことにホッとしている。

「いいボランティアによるマンツーマン体制」という質の高いサポートをしている限りにおいては、そうそう事故の発生などはない、と書きたいところだけれど、溺水事故を100パーセント未然に防ぐなんてことは、神様でなければできない芸当やで。

われわれは、これからも常に事故のリスクを負いながら活動していることを忘れてはならない。

特に、子どもの潜らせ方や活動中のテンカン発作の応急手当等については、「Pサイト」(会員だけが見れる

サイト)に掲載するなどして会員にしっかりと伝達していく。

8. 今後の展望

(1) 今後の展望

PV活動をひとつのコミュニティービジネス、ソーシャルビジネスとして捉えるならば、われわれは常に変化
する市場の動きに敏感でなければならない。自らの信念・使命(ミッション)を堅持しつつ、社会の動きに合
わせた柔軟で自然な事業展開こそが必要である。

「自由」「ユニーク」「今までにない切り口」「小回りがきく」「楽しい」「感動」「充実感、満足感がある」「心意気、
男気」「遊び心」「専門性」「決断が早い」「おもしろい」などのNPOの特性を常に意識し、お役所的、保身的
な運営にならないように注意すべきである。

職員にとっても会員にとっても魅力的な組織でなければPVは成長できないし、強烈な個性がなければN
POとしての存在意義がないことも自覚すべきである。

ただ、冷静に見てもPV事業が今後大きく失速するような要因は今のところ見当たらない。

全国的に見ても、同様な活動をしている団体は皆無であり(オンリーワン)、社会的には追い風状態で、新
型コロナのような不測の大きなアクシデントがない限り、このまま少しずつではあるが順調に発展すると予測
している。

これからも、障害者の6K(暗い、怖い、汚い、臭い、気持ち悪い、関わりたくない)のイメージを、少しでも払
拭して、障がい者も、スマイル、スマートでかっこよく、セクシーに泳ぐぞ。(PVの3つのS)

(2) 全国展開と事業規模の最適化の問題

毎年、全国からの問い合わせが多いが、特に首都圏からの問い合わせが群を抜いて多い。関東でPV事
業を展開すれば大当たりすると思うのだが、今のところは、大阪だけで手一杯である。

戦略的には大阪で基盤を安定させるだけの収入をしっかりと確保できるようになるまで、地域的な拡大は目
指さないほうが良いと考えている。

が、将来的には、関東圏にはぜひ、進出したい。

ところで、ドラッガーが言うように、事業の規模を考えることはとても重要である。

どれだけコンピューターに任せたとしても、最後のマッチング(利用会員とボランティア会員の相性などを
考えて組み合わせること)については職員の手作業と感覚でするしかない。

ここは、コンピューターではできないところである。

職員がすべての利用会員の障害の内容や程度、性格、そして、すべてのボランティア会員の指導能力や
個性を把握していなければ、この最終段階の組み合わせはできない。

そうすると、PVの二人の職員が展開できる事業の規模は、過去の経験から、だいたい年間のべ 4,000 名
ほどである。

これ以上に事業規模を拡大することは、事業の質を落とし、事故を誘発することになる。

したがって、近畿圏については、現状がほとんどマックスであると思う。

今後の事業の拡大については、近畿圏以外の地域において、支部ではなく姉妹校など全く独立した組織
と連携していくという方向がよいかもしれない。

近い将来、「NPO法人プール・ボランティア愛知」とか「NPO法人プール・ボランティア福岡」とかが誕生
するとおもしろいなあ。

けっして夢やないで。

(3) 別の収入源の模索

現在の事業収入の手段以外に何か別方向からの収入を得る道を模索しなければならない。

それが、業務委託なのか、スポンサー収入なのか、広告収入なのか、講演料なのか、イベント収入なのか、支援費制度とのからみなのか、物品販売なのか、本を出版することによる印税なのか……。

ひょっとしたら、プール専用車イスや「うきうきくん」の売り上げが、この「別の収入」になるかもしれない。

この問題を解決しない限り、新職員を採用する財政的な基盤が確保できないよ。

(4) 行政との連携

マスコミなどで、NPOと行政との連携がどうのこうのと言われているが、現実には行政との連携については、かなり難しいものがある。行政側の熱意と工夫のなさ、コスト感覚のなさ、発想の貧困さ、動きの重さ、手続きのややこしさなどがあり、同一行動がとりにくいからである。

甘い「連携」などという言葉に踊らされないよう慎重に対応する必要がある。

このように書くと行政との連携を嫌っていると勘違いされるようであるが、むしろ逆であって、行政との良い連携については切望しているのである。社会を変える最も効率的な方法が、行政と仲良く手を組むことだからである。なんか一緒にでけへんかなあ。

(5) 指定管理者、民間企業との連携

プールを運営する指定管理者とは、上手にギブアンドテイクで連携していく必要がある。プール環境を良い方向に変え得る最も直接的な相手だからである。

顧問契約等を締結しているシンコー、翔成、ホス、宝塚、神奈川県的林水泳教室や、日頃から仲のいいミズノやオージー、コナミなど、少しずつPVの存在価値を認識してもらえるようになってきた。障がい者対応研修普及事業などを通して、もっと連携を濃くしていきたい。

民間企業との連携は、まだまだであるが、昨年、山本化学工業さん、東京のスポーツ寿苑さんと仲が良くなった。

なんか一緒にでけへんかなあ。

(6) IT技術のさらなる活用(会員管理システム)

ボランティア会員からの活動エントリーや、利用会員からのお休み連絡、日々のマッチング、交通費や会費などの精算、寄付金の整理、その他の会員管理などをしてくれる「管理システム」の存在は、すこぶる大きい。

職員の仕事が大きく軽減されるからである。

この「PVのオリジナルマッチングソフト」も、どんどん改良を加えていく必要があり、2020 年度には、4代目となるシステムが完成する予定であったけれど、これが大失敗。860 万円もかけたのに。

管理システム制作を依頼する業者選びの難しさを痛感した。

2021 年度からは別の開発会社に、5代目の管理システムの制作を依頼したが、これも全然、出来が悪くて大失敗。

どないなってんねん。

気を取り直して、別のシステム開発会社に6代目のシステム制作を依頼した。

この管理システムは、プール・ボランティアの生命線であり、心臓部である。

この先、プール・ボランティアがこの世界で生き残っていくためには、このシステムが必要なのであ

る。

だから、この部分に投入する資金を惜しんではならない。

が、痛い！痛い！痛い！痛い！先立つものがないがな。支払いはどないすんねん。

また、会員だけが閲覧できる「Pサイト」も、情報の共有をすることができるので、事故の防止に大きな効果がある。

こういうことができるのも、IT 技術の進歩やなあ。

(7) ホームページの重要性和フェイスブック、ツイッター、ユーチューブなどの活用

ホームページは、重要と考えている。

2018 年度に新しいホームページが完成し、委託する業者も新しくしたが、大失敗。

2021 年度に別の委託業者に新たにホームページの製作を依頼したが、これも、もめにもめて大失敗。開発業者を見極める能力のなさに、愕然とした。

フェイスブックやツイッターやラインのような手段で他人と交流することについては好きではないし抵抗があるが、その大きな効果については認めざるを得ないので、今後も活用していきたい。

そして、今年度もおもしろ動画をユーチューブにいくつか発信した。

動画制作のために採用したデジタル顧問に頑張ってもらいたい。

(8) 職員の研修、福利厚生

PVの職員は超多忙で、休日はほとんどなく給料も安いいうえに、いわゆる「持ち出し」も多い。

その一方で、たくさんのボランティアさんと気持ちのいい付き合いをし、たくさんの障がい児に優しく接するためには、ハイレベルの心の余裕や遊び心が必要である。みずみずしい感覚の有無が、直接、事業の良し悪しに響いてくる。したがって職員研修や福利厚生の充実などが重要になってくるのであるが財政的にそして時間的にあまり大がかりなことはできない。

そこで、安価で短時間で効果的な研修や福利厚生などに、来年度もチカラを入れていくつもりである。

吉本新喜劇を見てバカ笑いをするとか、心ときめく映画を見に行くとか、通天閣に登るとか、美味しいランチを食べに行くとか……いろいろとNPOらしいアイデアで職員の心の水分補給をしていきたい。

それでも、ここ数年は、かなり福利厚生を充実させてきている。

一般的に言って、NPOの職員が過酷な労働条件の下で働いているのは、その仕事に誇りを持ち、やりがいがあり、人間関係が良く、楽しいからである。

そのことを十分に認識し、理事長として少しでも快適な職場環境の維持、彼らの生活の安定に努めたいと思っている。

(9) 内部留保金(法人としての貯金)と借金の返済

2021 年度は 5 代目の管理システムを発注したり、ヘルプマーク・スイムキャップを全国に無償配布したりなど、出費が多くて財政的には真っ赤っかになってしまった。毎年、同じことを言ってるけど、どないしよう。頭が痛い。誰か「打ち出の小槌」をくれへんかなあ。

内部留保金を蓄え、3 ヶ月はアクシデントがあっても持ちこたえられるような基盤を作っていくという課題は、まだまだ遠い先の話しや。

同時に山ほどある借金も、少しずつ返済していきたい。できるんかなあ……。

日本政策金融公庫から 1000 万円、大阪商工信金から 500 万円の融資は、今後 10 年間で少しずつ返済していく。

しんどいけれど、ニッコリ笑顔で返済しまっせ。

(10) 新職員の採用

NPO法人にとって、事務所、専従職員、パソコンは三種の神器である。

しっかりと地に足をつけた事業運営を考えると、この三つは欠かせない。

そして、PVは、常に先駆的でプロフェッショナルでファッショナブルな組織でありたい。

2019年1月に、隣の901号室に新事務所を移転したことによって、新しい職員やアルバイトが働きやすい環境ができたと思う。

よい人材を採用し次世代に引き継いでいきたい。いわゆる「後継者」問題である。

現岡崎理事長は、もう高齢であり考え方も古くなってきているし、デジタル社会についていけない。

少しでも早く彼に戦力外通告をしなければならない！

そして、今後、10年以内に新しい理事長を見つけなければならない！

そして、活きのいい新職員を採用しなければならない！

そして、それができるような財政的な基盤を確立しなければならない！

(大変やん！)

9. 顧問、業務委託関係についての報告（★印は有償）

- ★弁護士……………小坂梨緑菜(PV-664/正会員)
- ★司法書士、社会保険労務士……………達富慎也(PV-163/正会員)
- ★弁理士……………西村弘(PV-957)
- ★行政書士……………横山佳代(PV-1083/正会員)
- ★税理士……………谷本晃(PV応援団)
- ★ホームページ、管理システム……………
- ★IT環境・保守……………株式会社イヴレス
- 理学療法士(PT)……………森本羽衣子(PV-588)
- 作業療法士(OT)……………該当者ナシ
- 言語聴覚士(ST)……………該当者ナシ
- ★水難救助関係顧問……………吹田光弘
- ★医療顧問団……………NPO 法人地域医療連繋団体.Needs (PV応援団)
- 技術顧問……………中島彰(PV-1035)
- 保険関係……………佐藤光子(PV-1285)
- ★写真担当……………NPO法人広報写真ボランティア(正会員)
- ★デジタル顧問……………鳥本光照(PV-1260)
- ★広報・ファンドレイジング顧問……………石井大輔
- 相談役(牧師)……………松本信章(PV-051/正会員)

10. 社員総会の開催状況

2020 年度 PV正会員総会

- 【日 時】 2021 年(令和 3 年) 3 月 14 日(日) 19:00～19:30
- 【場 所】 PV事務所
- 【社員総数】 10 名
- 【出席者数】 10 名
- 【内 容】 2020 年度 事業報告の承認
2020 年度 決算報告の承認
2021 年度 事業計画(案)の承認
2021 年度 予算(案)の承認

11. 理事会の開催状況

2021 年度 PV理事会

- 【日 時】 偶数月の第一日曜日に開催 19:00～20:00
- 【場 所】 PV事務所
- 【理事総数】 3 名